

2017年3月期 第3四半期決算説明会

2017年2月6日

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者（CEO）

垣内 永次

本日のアジェンダ

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

連結業績 <2017/3月期 第3四半期>

(億円)	2016/3月期						2017/3月期				前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	累計	累計(増減)	
売上高	561	737	530	1,828	768	2,596	622	738	738	2,100	271	14.9%
SE	347	472	320	1,140	517	1,658	412	503	506	1,423	282	24.8%
GP	147	165	138	451	161	612	114	146	120	381	▲70	▲15.6%
GA(印刷関連機器)	126	140	124	392	130	523	96	124	104	325	▲66	▲17.0%
PE(プリント基板関連機器)	20	25	13	59	30	89	18	21	16	55	▲3	▲6.0%
FT	63	96	69	228	87	315	93	86	108	287	59	25.9%
その他および調整	3	2	2	7	2	10	1	2	3	7	0	1.0%
営業利益	32	75	41	149	85	235	51	70	91	213	63	42.4%
営業利益率	5.9%	10.2%	7.9%	8.2%	11.2%	9.1%	8.2%	9.6%	12.4%	10.2%	-	2.0pt
SE	21	58	30	109	77	187	43	60	80	184	75	68.7%
GP	9	7	4	22	9	31	▲1	10	2	11	▲11	▲49.4%
FT	1	14	6	22	5	27	12	5	11	29	7	33.5%
その他および調整	0	▲4	0	▲4	▲6	▲10	▲3	▲5	▲3	▲12	▲8	-
経常利益	34	71	41	147	84	231	50	66	90	207	60	40.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	22	62	34	119	68	188	37	57	68	163	43	36.5%

SE: セミコンダクターソリューション事業 GP: グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業
FT: ファインテックソリューション事業

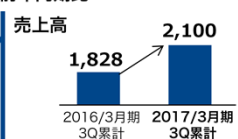
3Q決算のポイント>>

- 好調なSE、FT事業の業績を受け、3Q累計前年同期比、増収増益でした。
- SEセグメントは、3Qの受注が2Q（533億円）を上回り過去最高（648億円）、この高水準の受注状況を受け、下期と通期を上方修正しました。
- 継続したCCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）の改善取り組みなどが奏功し、1Qで達成したネットキャッシュポジションを3Qも維持、FCF（フリーキャッシュフロー）と共に、額を伸ばすことができました。
- 収益構造改革、財務体質の改善が評価され、格付けが1ノッチアップしました。2016年末に、BBBから「BBB+安定的」に上りました。

連結業績サマリー <2017/3月期 第3四半期>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	3Q累計	3Q累計		
売上高	1,828	2,100	271	14.9%
営業利益 営業利益率	149 8.2%	213 10.2%	63 2.0pt	42.4%
経常利益	147	207	60	40.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	119	163	43	36.5%

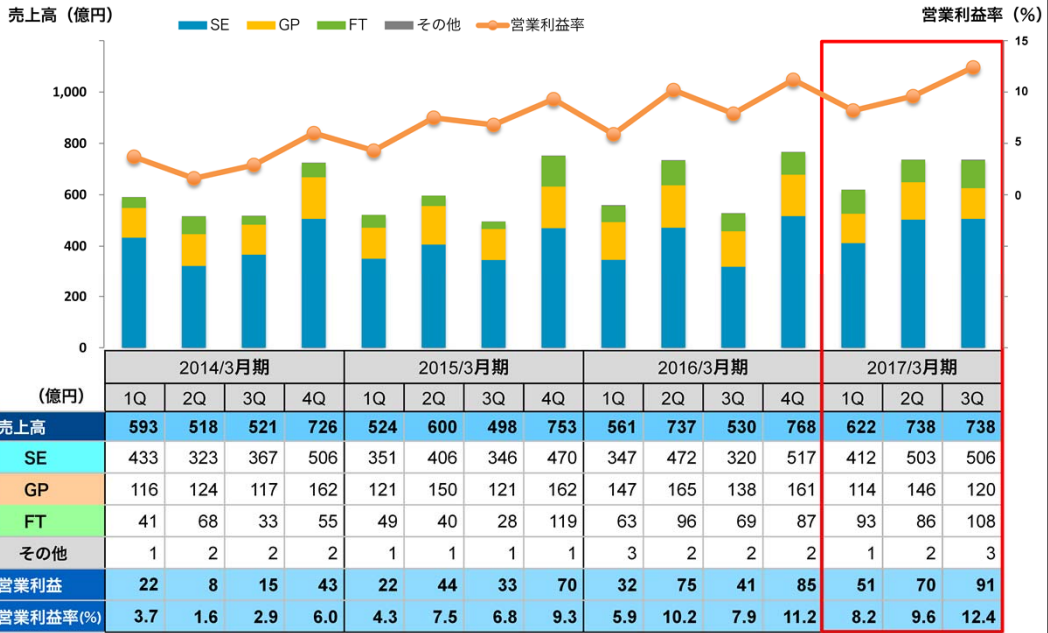
前年同期比



前四半期比 (億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	2Q	3Q		
売上高	738	738	0	0%
営業利益 営業利益率	70 9.6%	91 12.4%	20 2.8pt	29.6%
経常利益	66	90	24	36.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	57	68	11	19.8%

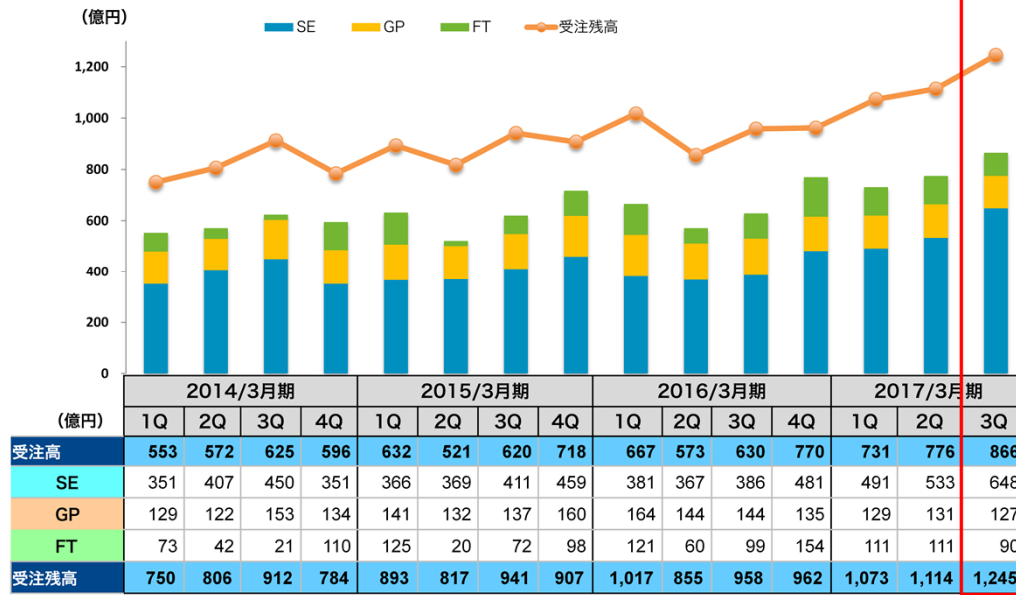
- 3Q累計前年同期比では、増収増益（SE、FTが増収増益）でした。
営業利益に関しては、売上増加などが主要因です。
- 対前四半期比（2Q vs 3Q）は、増益（SE、FTが増収増益）でした。

連結売上高/営業利益の四半期推移



- SEとFTの好調な業績により、前年同期比（3Q比、3Q累計比）で増収増益でした。3Q累計では、売上（2,100億円）、営業利益（213億円）、営業利益率（10.2%）となり、売上と営業利益は2Qに続き、リーマンショック以降、最高額となりました。

連結受注高/受注残高の四半期推移



- 3Qの全社の受注高（866億円）は、2Qに続いて高水準となりました。
- 3Qの全社の受注残高は1,245億円と高水準で、5四半期連続の増加となり、四半期としてはリーマンショック以降、最高額です。

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

セグメント別業績概況 <SEセグメント>

前年同期比

(億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	3Q累計	3Q累計		
売上高	1,140	1,423	282	24.8%
営業利益	109	184	75	68.7%
営業利益率	9.6%	13.0%	3.4pt	

前年同期比

売上高



前四半期比

(億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	2Q	3Q		
売上高	503	506	2	0.5%
営業利益	60	80	20	33.8%
営業利益率	12.0%	16.0%	4.0pt	

営業利益



トピックス

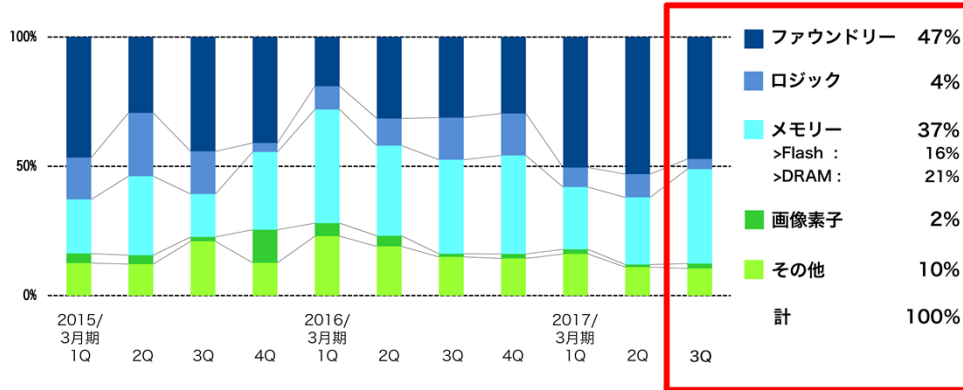
- 3Q累計前年同期比はファウンドリーの微細化投資、フラッシュメモリー（3D-NAND）の積極投資が引続き好調であったため大幅に増収増益となった。また、受注についても2Q比大幅増（2Q:533→3Q:648億円）、四半期では過去最高となった。
- 今期は、ファウンドリー、フラッシュメモリーが牽引して、売上・受注とも高いレベルをキープできそう。来期はやはり、ファウンドリー、フラッシュメモリーがドライバーとなり、加えて、DRAMの微細化投資も含め、活況な市場環境が維持されると予想する。

- 3Q累計前年同期比、前四半期比ともに、増収増益でした。2Qに続き、ファウンドリーとフラッシュメモリー（3D-NAND）が売上を牽引しました。装置としては、枚葉、バッチともに増加しました。地域別では台湾、中国の伸びが顕著（国内、北米は減少）となりました。
- 通期予想でも、ファウンドリーの微細化、および、3D-NANDへの積極投資が続くと予想され、第2四半期決算（11月）予想から上方修正しました。

デバイス別/地域別受注比率・四半期推移 <SEセグメント>

単独・デバイス別受注比率

*ご参考：連結受注高 648億円



地域別受注比率(2017/3月期 3Q)



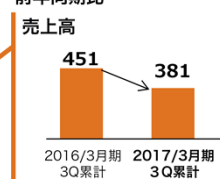
- 3Qの受注高は、648億円と、非常に好調であった2Q（533億円）をさらに上回って過去最高受注額となり、先期3Qから5四半期連続で増加しました。
- デバイス別では、2Qに続き、ファウンドリーが好調で、メモリーと合わせると、全体の85%近い比率を占めました。
- 4Qの受注は引続き強く、3Qには及ばないものの、高水準で推移すると予想しています。

セグメント別業績概況 <GPセグメント>

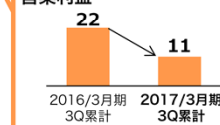
前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	3Q累計	3Q累計		
売上高	451	381	▲70	▲15.6%
営業利益 営業利益率	22 5.0%	11 3.0%	▲11 ▲2.0pt	▲49.4%

前四半期比 (億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	2Q	3Q		
売上高	146	120	▲25	▲17.3%
営業利益 営業利益率	10 7.0%	2 2.0%	▲7 ▲5.0pt	▲76.3%

前年同期比



前年同期比



トピックス

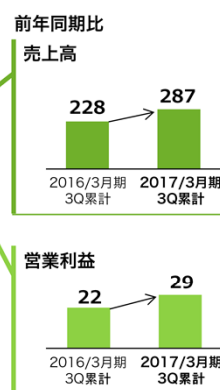
- 3Q累計の売上は前年同期比で、印刷関連（GA）は、期中の円高影響を受けて海外売上が減少。プリント基板関連（PE）は微減し、GP全体でも減収。営業利益は、変動費率の低減を図ったものの、売上減に伴って減益となった。
- 4Q以降、GAではPOD装置の販売強化を進め、収益改善を図る。PEは、直接描画装置の販売拡大を中心に、利益率のさらなる引き上げを目指す（4月1日に独立会社に）。

- 3Q累計、前年同期比では、印刷関連（GA）は、期中の円高影響を受けて、海外売上が減少しました。プリント基板関連（PE）は前年同期比、微減に留まりました。
- 4Q以降、収益構造改革の中で、「販売」「マーケティング」「開発・製造プロセス改革」などにより、収益力向上を目指します。

セグメント別業績概況 <FTセグメント>

前年同期比 (億円)	2016/3月期	2017/3月期	増減	
	3Q累計	3Q累計		
売上高	228	287	59	25.9%
営業利益 営業利益率	22 9.7%	29 10.3%	7 0.6pt	33.5%

前四半期比 (億円)	2017/3月期	2017/3月期	増減	
	2Q	3Q		
売上高	86	108	22	25.6%
営業利益 営業利益率	5 5.9%	11 11.0%	6 5.2pt	136.3%



トピックス

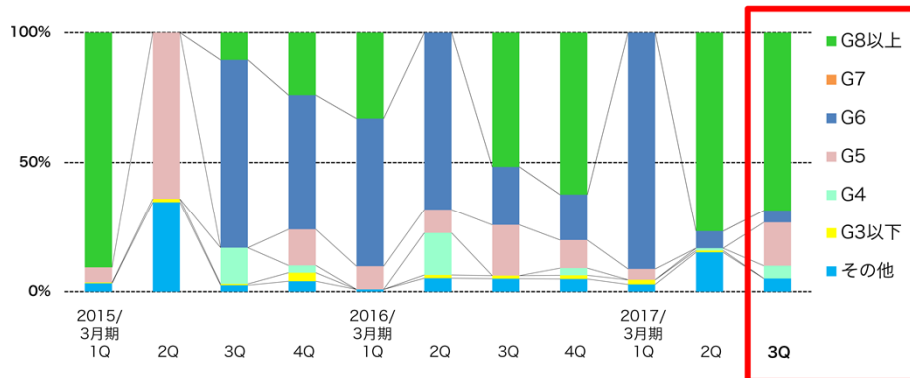
- 3Q累計では、中国向け大型装置は、投資時期の影響により一時的に減少したものの、国内や台湾向けの中小型装置が増加し、営業利益も10%以上を達成。
- 受注環境は、LCD中心に好調なレベルを継続し、OLED関連を含めた成膜関連など新規分野の増加は続く。

- 3Q累計は、前年同期比では、増収増益。営業利益は10.3%と高水準になりました。
 - ・ 中国向けの大型パネル用装置は投資時期の影響により、一時的に減少するも、国内や台湾向けの中小型装置は増加と好調でした。
 - ・ 営業利益も10.3%と2桁台になり、好調でした。
- 前四半期比でも、増収増益。営業利益が一時的に悪化した2Qからは、想定どおり回復しました。このまま4Qも好調に推移する見込みです。
- 受注環境は、引き続き高水準で推移する見込みです。

製品サイズ/地域別受注比率・四半期推移 <FTセグメント>

単独・製品サイズ別受注比率

*ご参考：連結受注高 90億円



地域別受注比率(2017/3月期 3Q)



- 3Qの受注高は90億円。受注残は4四半期連続で400億円レベルで推移しました。
 - 受注の中身は、大型が70%弱、中小型は25%程度。
 - 地域別では、中国が80%以上、台湾、日本となりました。
 - OLED関連、新規事業も順調に増加しました。
- 4Qの受注は3Q程度で、ディスプレイ事業のみならず、新規事業も伸びる見込みです。

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

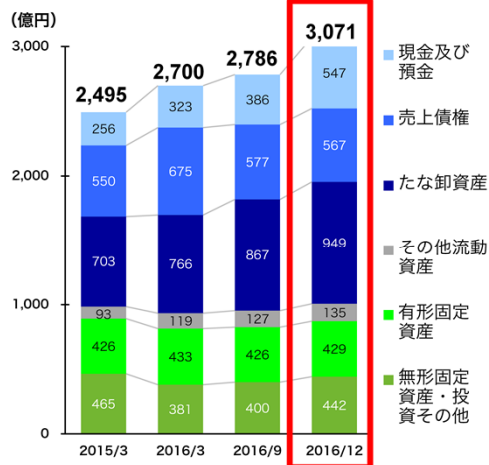
4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

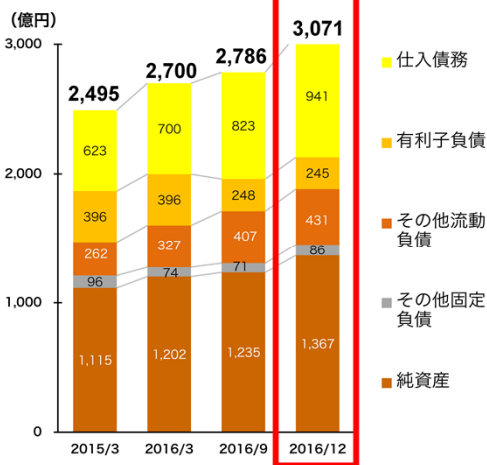
6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

連結貸借対照表

資産の部



負債および純資産の部



自己資本比率 44.3% (2016/3月末) → 44.5% (2016/12月末)

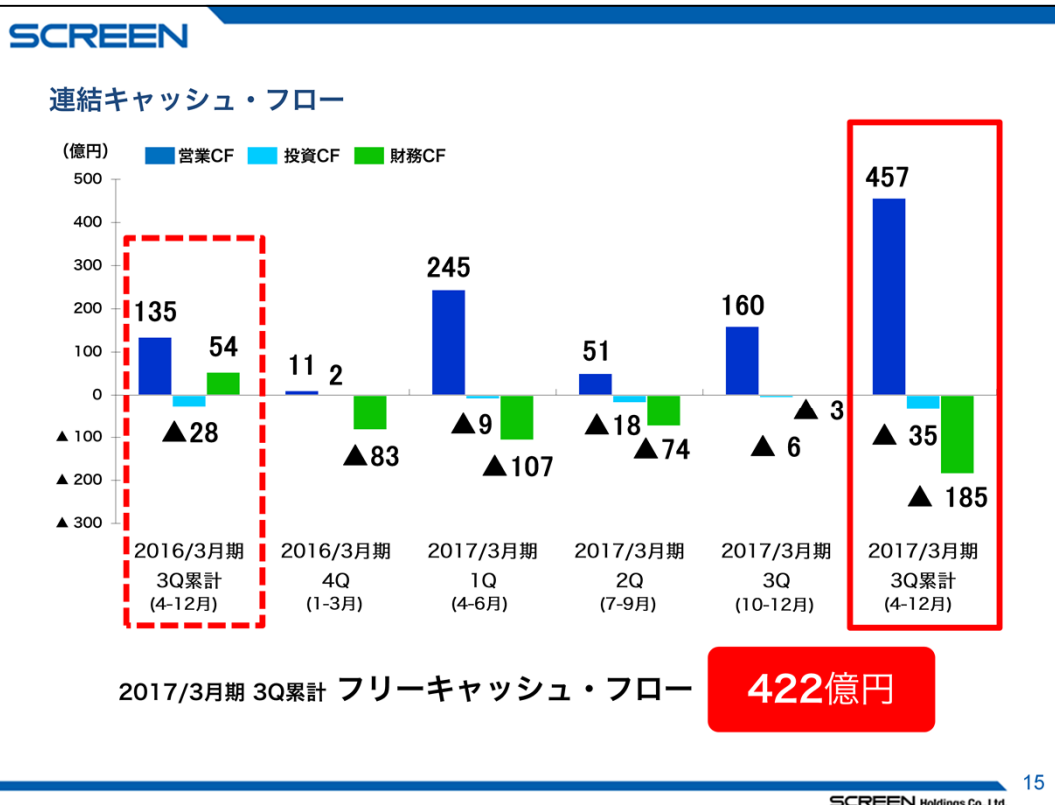
前期末（2016年3月末）との比較：

総資産は、3,071億円に増加しました。

資産の部では、好調な受注に伴い「たな卸資産」は増加、一方でキャッシュの増加、売上債権が減少しました。

負債および純資産の部では、利益の積上げにより純資産が増加しました。

- 資産合計は3,071億円。前期末比では、370億円（13.7%）増加しました。
→受取手形及び売上債権（売掛金）が減少した一方で、現金及び預金やたな卸資産が増加したことなどによります。
- 負債合計は1,703億円。前期末比では、205億円増加しました。
→有利子負債が減少した一方で、仕入債務や前受金の増加したことなどによります。
→有利子負債は245億円。社債（6月と9月）を償還したことなどにより、前期末比151億円（38.2%）減少しました。
- 純資産合計は1,367億円。前期末比では、164億円（13.7%）増加しました。
→円高の影響により為替換算調整勘定が減少した一方で、（親会社株主に帰属する四半期）純利益を計上したことにより、利益剰余金、および、その他有価証券評価差額金が増加しました。
- 自己資本比率は44.5%と、前期末より、わずかに増加しました。引き続き、50%以上を目指しています。

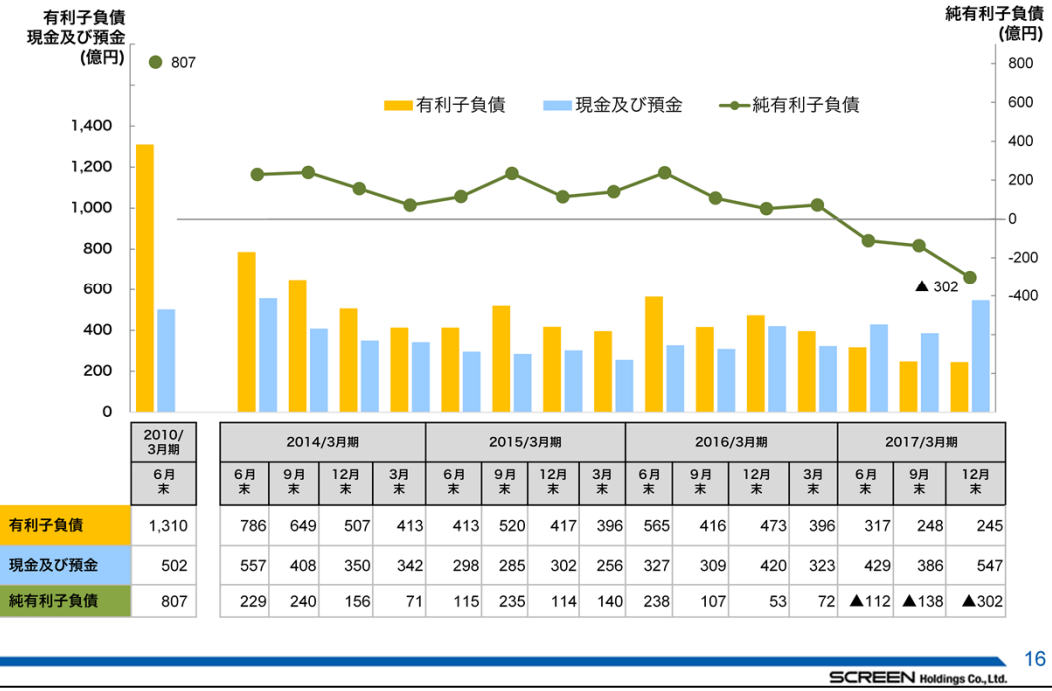


当第3四半期連結累計期間（2016年4月-12月）におけるキャッシュフロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー：457億円の収入
各事業会社が継続的にCCC改善に取り組んだ結果、リーマンショック以降、3Q累計で最大の営業キャッシュ・フローになりました。
前年同期（135億円の収入）比で、大幅改善しました。
→売上債権の減少、仕入債務の増加、前受金の増加などの収入項目が、たな卸資産の増加などの支出項目を上回りました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー：35億円の支出
研究開発設備などの有形固定資産を取得したことなどにより増加（前年同期28億円）しました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー：185億円の支出
社債の償還（6月と9月）や配当金の支払い（6月）などによります。
前年同期は54億円の収入でした。

結果として、FCFは、422億円の高水準に（前年同期は107億円）になりました。

連結有利子負債



- 純有利子負債は、今期に入ってからマイナスです。
ネットキャッシュポジションを継続しています。
- 有利子負債245億円、前期末比で151億円減少。
社債（6月と9月）を償還したことなどによる減少です。
- 純有利子負債は▲302億円、前期末比で374億円の減少。
302億円のネットキャッシュポジションになりました。
3月末に向けてもネットキャッシュを維持できる見込みです。

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

2017年3月期 業績予想

(億円)	2016年3月期			2017年3月期				
	上期	下期	通期	上期	下期予想		通期予想	
					11月発表	2月発表	11月発表	2月発表
売上高	1,298	1,298	2,596	1,361	1,479	1,579	2,840	2,940
SE	819	838	1,658	916	983	1,088	1,900	2,005
GP	313	299	612	260	284	279	545	540
FT	159	156	315	179	195	201	375	380
その他	5	4	10	4	15	10	20	15
営業利益 営業利益率	108 8.3%	127 9.8%	235 9.1%	121 8.9%	168 11.4%	188 11.9%	290 10.2%	310 10.5%
経常利益	106	125	231	116	163	183	280	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	84	103	188	94	135	150	230	245

注) 4Q想定為替レート>> 1USDドル=110円、1ユーロ=120円

- 2017年3月期の下期・通期の業績予想： 売上、利益ともに上方修正しました。
営業利益310億円は、過去最高（2007/3月期 305億円を上回る）を見込んでいます。
・SE事業において、足元の過去最高水準の受注状況から、売上と利益が11月時の想定を上回る見込みになったためです。
- 想定レート（通期ベース）：
 - ・1USDドル：110円（8月、11月時点：105円 ← 5月時点：107円）
 - ・1ユーロ：120円（8月、11月時点：115円 ← 5月時点：120円）

株主還元について <2017年3月期>

連結総還元性向25%を目指す

(2015年3月20日にリリース)

>>中期3カ年経営計画の目標達成時

(営業利益率10%以上、自己資本比率50%以上)

■ 期末配当金 (予想) >> 75.00円 (1株当たり)

通期の上方修正に伴い、増配 (従来予想・70円)

+

自社株買いを実施予定 (2017/2/7~3/31)

取得条件>> 20億円、または、33万株が上限



- 配当：通期の上方修正を受け、11月予想から5円を上乗せ、75円を予想（株式併合後の額）します。

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

中期3カ年経営計画 "Challenge 2016" <2014年4月-2017年3月>

3つの目標>>

① 収益構造改革の完遂

最終年度の営業利益率10%以上

② 財務体質の強化

最終年度の自己資本比率50%以上

③ 新規事業領域での事業化

4つの新規事業領域で黒字化

○ 達成がほぼ確実に

△ 新規事業、
次期中計での黒字化

方向性

次期・中期3カ年経営計画 <2017年4月-2020年3月>

>>トップラインを伸ばす
>>キャッシュ創出

企業価値向上を目指す

M&Aによる成長

オーガニックな成長

“Challenge2016”の成果>> 収益力・財務基盤の維持向上

- 4月から始まる、次期・中期3カ年経営計画の数値など詳細は、2017年5月の決算発表時に説明する予定です。

1. 2017年3月期 第3四半期 連結業績

2. セグメント別業績概況

3. 財務状況

4. 2017年3月期 業績予想

5. 中期3カ年経営計画について

6. その他のトピックス（最近の取り組みなど）

2016年11~2017年2月

- HD>> ●世界初、冷間鍛造部品の外観検査技術を開発
数十マイクロメートル単位の微細な傷を検出し、欠陥部品の流出低減に
- 日本格付研究所（JCR）による当社格付、1ノッチアップ
「BBB」から「BBB+」へ格上げ
- SE事業>> ●半導体後工程のFOPLP向け露光装置を開発
大型パネル用直接描画露光装置、世界最高水準の2μm解像度を実現
- Letiとレーザーアニール技術の共同開発に合意
- GP事業>> ●ヒラギノフォント、国際都市・神戸の多言語案内サインに採用される
- FT事業>> ●燃料電池製造装置を開発、製造時間を短縮、生産コスト低減に
直接塗工法による量産製造技術を確立

SCREEN

Fit your needs, Fit your future

